



文明はユー・エム・アール

つながるか

田島町立荒海小学校教諭

山本 恭士

人間は、ユー・トピアを目指して文明を発展させてきた。複雑な政治国家、貨幣経済社会、速さと便利さを追求した機械、豊かな物質、生産技術の発達など、それらは、私たちが真の幸せに導いてくれているのだろうか。

文明、幸福、生き方についてじっくり考えさせてくれたのが、「パパラギ」であった。この本は、はじめて文明を見たサモアの酋長ツイアビの演説集である。その中で、私たちが信じてきた文明信仰が根底から否定されている。ツイアビは、曇りのない目でヨーロッパの文明を批評する。体を覆い肉体的にも精神的にも不健康にする「着物」を、日もなく光もなく風もない「家」を、人の心を人間のすべてを悪しきいざごぎの中に引き込んでしまう「お金」を、自然の産物さえも私有財産にしてしまう物質主義を、時間を作り時間に追われる人々を、考えることと覚えることを強要される社会を……。

の前に、何もしないことに喜びや幸せがあるのに、テレビに時間を費やし、遠くへ行くことが幸せだと錯覚し、忙しく働いて金を稼ぐこと、知識をつめ込むことが幸福をつかむことだと思いきみすぎてしまっている自分がいる。日本に生活し、文明すべてを否定して生きることはできないが、「漁に出て、家族分の魚をとつたらそれで終わり」というサモアの人々の考え方を自分の生き方の根底におきたい。そして、何も考えずのんびりしたり、目の前のささいなことを喜んだり、山の中をただ歩き回ること、自分の呼吸に合わせてのんびり歩くことに幸せを感じて生きたい。

この本は、頑張らなくちゃと張りつめていた精神の糸を少しゆるめてくれた一冊であった。

本 の 名 称 …… パパラギ
著 者 名 …… ツイアビ
岡崎照男・訳
発 行 所 …… 立風書房
発 行 年 …… 二〇〇九年四月五日
本 コー ド …… ISBN
ISBN 978-4-8397-0004-4
C O D E N …… 4C004

心に残る

グリム童話のおもしろさ

県立美術館主任学芸員

荒木 康子



「赤ずきん」などでお馴染みのグリム童話。ドイツのグリム兄弟が、十九世紀に収集した昔話を童話集として出版したものだ。今でこそ童話の古典だが、初版を出版した当時の評判は思わしくなかった。性にまつわる事柄や残酷な場面があつて子供には向かないというのである。そこで、彼らは版を重ねるごとに手を加えていった。私たちが知っているグリム童話は、本来のお話を子供向けに味付けし直した物語だったのだ。

これでは、読み手もめでたしめでたしとすんなり本を閉じるわけにはいかない。何故二人の間に、こんな異常な親子関係が生まれてしまったのか。一体父親は何をしていたのか。私たちはここから何を讀みとればよいのだろうか。読者は知らず知らずのうちに、裏に隠されているであろう真のストーリーを探し求める旅に誘い込まれる。グリム童話の懐は、思っていたより深い。

昨年からのちよつとしたグリムブーム。初版本が翻訳されて、私たちにもその本来の姿が明らかにされつつある。「え、そうだったの」という驚きと、人間ドラマの不可思議さと奥深さは、読者の好奇心をかき立ててやまない。例えば、意地悪い継母に殺されかけた悲劇の白雪姫。しかし、初版本のどこにも継母とは書かれていない。魔女に姿を変えるその女は、白雪姫の実の母親だった。何てひどい母親だろう。いや、ということは、最後に母

に手を下すのは実の娘ということになるではないか。清く正しいお姫様の成功物語も、実は母親の間で繰り広げられた凄惨な殺戮劇というわけだ。

本 の 名 称 …… ベストセレクション
初 版 グリム童話
著 者 名 …… 訳者名
吉原高志・吉原泰子
発 行 所 …… 白水社
発 行 年 …… 二〇〇九年十月五日
本 コー ド …… ISBN
ISBN 978-4-263-00004-3
C O D E N …… 4C004

本 の 名 称 …… パパラギ
著 者 名 …… ツイアビ
岡崎照男・訳
発 行 所 …… 立風書房
発 行 年 …… 二〇〇九年四月五日
本 コー ド …… ISBN
ISBN 978-4-8397-0004-4
C O D E N …… 4C004